

組合に加入して安心して仕事をしよう！

組合員の皆様、周りに組合に加入したいと思っている方はおられませんか？あるいは組合に加入した方がよい人はおられませんか？是非、声をかけてあげてください。組合に加入するのに、どのような事が問題で加入を見送られているか、あるいは迷っておられるか、聞いてみてください。これから2月後半になると、臨時大会にむけた分会の開催をお願いすることになります。その分会で執行委員に、声をかけた結果をお教え下さい。組合加入に関する疑問や問題点を解決し、一人でも多くの方に組合に加入頂き、安心して仕事ができる環境を実現していきたいと考えています。

よろしくお願い致します。

中央委員会開催のお知らせ

日時： 2月18日(水) 18:30~
場所： 原科研 第1研究棟1階 第5会議室 (予定)
議題： 臨時大会議案書の構成の承認、
活動報告、その他
中央委員の方々は準備をお願い致します。

分会長会議開催のお知らせ

日時： 2月19日(木) 12:30~、18:30~
2月20日(金) 12:30~
場所： 原科研内 原研労組合事務所
議題： 臨時大会議案書の説明、分会開催のお願い
その他
各分会の分会長の方は3回のいずれかに必ずご参加下さい。

2009年春闘に向けた賃金・諸要求アンケートから

昨年、組合員の皆様にご協力頂き、2009年春闘に向けた賃金・諸要求アンケートを実施致しました。皆様から頂きましたご意見を、少しずつ紹介させていただきます。ご協力頂いた皆様、どうもありがとうございました。

<No.4741のつづき>

【機構の運営全般に関する意見】

- (7) 統合前からのことではあるが、なにかにつけ現場へ丸投げという傾向が最近とみにひどくなっている。安全関係や環境・リサイクル関係など、法律の要求が厳しくなり業務量が増大しているのは確かだが、それが全て現場の研究者にしわ寄せされている。その結果研究者は本来業務である研究に費やせる時間がますます少なくなり、当然成果も減ることになる。
また同じ部署内であっても担当者毎の縦割りが進んで調整能力が機能せず、現場の研究者が個別に交渉しなければならない状況になっている。
本来ならば研究以外の業務を研究者にしわ寄せしないよう、保安全管理部や工務技術部などの担当部署をもっと拡充すべきである。個々人の頑張りには限界がある。経営判断をしてもらいたい。
- (8) 原子力の平和利用の前提としての核兵器廃絶を、原子力研究開発機構の経営陣は明確に表明すべきである。
そして、日本原水協を中心とする原水禁運動に積極的に関わって、世界(地球上)での先進的な核兵器廃絶活動に参加すべきである。近くは「地域交流課」が、地域に出て「核兵器廃絶署名」集約活動を積極的にすべきである。
- (9) 1. 任期付の職員が増えることは、研究開発の継続性や職場の活性化にとって良くない。予算を確保し任期付でない職員を増やすべき。
2. 人事評価制度は、格差をつけるのを目的としないよう運用すべき。安心して仕事に没頭できる職場の雰囲気大切にすべき。
- (10) 「もんじゅ」での対応を見るとするべきことをきちんとやっていない、という印象を強く受ける。外から見るとなおさらだと思ふ。さすがに「事故隠し」はなくなったようであるが、積極的に問題を解決しようという気概に欠けているように思ふ。こうした状況を抜本的に変えないと大きなトラブルが発生する惧れがある。外から批判されると、自分が何故か被害者になってしまう人がいるのも不思議である。事故を起こさない「もんじゅ」のために組合が人材集中を提言してみてもいいのでは？
失敗したら、旧サイクル機構、旧原研に関係なく原子力機構全体が大きな影響をうけるのですから！
- (11) 労働者の構成として半数以上は、年間請負の方で占められており、彼らがいなければ業務が進められないのが現実である。しかし、彼らは不安定で弱い立場にあり、技術の継承等機構の将来を考えるならば、速やかに人員増を実現し職員化することが必要だ。
- (12) 個々の管理業務の必要性は理解できるが、あまりに多くの課題を要求され、また義務を伴うので、研究に費やせる時間がかなり減った。
- (13) 機構のイントラで、人事評価制度、業務連絡書などのアンケート結果は、良い面だけを載せており、悪い面は隠していると思ふ。

- (14) 今のやり方(QA、リスクアセスメント、水平展開、ISO)は、やらなくてもよい仕事に時間をとられている。また、縦や横の連絡が悪すぎる。もっと気楽に話し合える職場にしないと未来はないのでは。
- (15) PDCA の重要性は理解できるが、年度計画や業務評価などに係る業務が多すぎる。また、評価を気にするあまり、実態とかけ離れた、針小棒大、過大申告、羊頭狗肉とでもいうべき記述や説明が多すぎる。必ず、ツケが廻ってくる。
- (16) 一部の部署が勝手に決めたことを、ろくな審議もされずにそのまま実施させられることが多い。
しかもそれがほとんど役に立たない物だったりする。
- (17) 経営者(理事)の理念(業務の方向性)がまったく見られない。
機構として為すべきことは何で、そのためにどうしたいのかを具体的に示してほしい。何をやりたいのか不明な発言はやめてほしい。
- (18) とにかく、文書を回したり、何でも書類を作らしたりすれば、安全になると思っていないか?その作業のために、現場にいる時間が削られている。
- (19) 旧原研とJNCとで人員はあまり変わらないが、JNC側は、外注化が多く、人員不足があまりみうけられない。
- (20) 機構になってから課長レベルの文書で、理由も明らかにされず、東海研全所的な行動が規制されるケースがあるが、職権乱用にならないのか。
- (21) 組織的な統合は仕方ないとしても、文化的な統合は無理。
お互いの文化に抵触しないような仕事のやり方を考えて頂きたい。
- (22) 統合後の規則変更が多く見受けられ、これは統合によって労働条件が継承されたと言えない。また、統合で受け入れ学生の待遇が非常に改悪された。組合員ではないが、機構で受け入れている学生は極めて弱者であり、組合で少し対応してもらいたい。例えば昼食代が職員待遇から外され、30%高いお金を払っている。また、無給で受け入れている実習生が寮費を要求されるようになった。また、こういう改悪が現場に周知されないの、相変わらず寮は無料貸与と学生に説明している場合がそうとうあると思われ、学生をだます結果となっている。
- (23) 機構として、品質とリスクアセスメントに関しては、頑張っていて取り組んでいるのは理解できるが、具体的な会社の目標は何なのかよくわからない。

【科労協の運動】

- (1) あまり活動内容を把握していないのですが、今の労働者が置かれている状況は異常すぎます。科労協としても積極的にその改善のために運動を進めてください。全労働者の底上げなしに、私たちの労働条件の改善もないと思います。自らも何らかの行動をとらねばとも考えています。
- (2) 科労協の運動がよく見えない。
- (3) 活動を良く知らないの、特になし。

【今後の運動の進め方や労組の取り組みについて】

- (1) 科研費ID取得者1600人、科研費に応募したことがある職員が700人であることから、デスクワークではなく、実際に研究をしている職員は800人程度だろうと推測されます。つまり、研究環境や勤務形態・勤務時間について改善を要求しても2割程度のワガママな職員の戯言に扱われているのではないかと考えられます。また、研究系職員は旧サイクル系部門には

ほとんど勤務していないので、「統合された」組織には旧原研系の考え方は向かないと一蹴されることを懸念します。

- (2) 少子化対策として、男女いづれも取得できる育児休業(最長5年?)を取りやすく。女性の能力を十分発揮されるには、安心して働ける環境が必要。周囲に遠慮して希望通り取得できているか疑問。実態を調査して、改善の必要があれば改善してほしい。
- (3) しばらくの間、賃上げについては難しい状況ですので、労働条件の改善に向けて取り組みを要望します。
- (4) 60才以上の研究者の処遇改善;大学や理研の教授は65才定年だし、私立大学では70代まで研究・教育職についているが、これらに比較して原子力機構の嘱託研究員の処遇は劣悪きわまる。現役以上に学会発表・論文発表、研究報告書作成をしても、その賃金は退職前の4割相当。非常勤にされれば3割相当。一時金も劣悪。窓際で閑職の人は別として、社会的にも研究者の労働力を生かせていない。
大体、60代の理事達はいくら給料をもらっているのか。同じ年代の労働力としてあまりに格差が大きすぎる。理事1人1人の給料と退職金を明らかにして比較して欲しい。
- (5) J-PARCにおいてビーム運転時、制御室に詰めるシフトリーダーは勤務時間を変更したかたちの3交代で勤務しているが、この勤務形態では勤務者の疲労が懸念される。
また、各装置担当者(研究員等)は、毎日ビーム運転が終わる(深夜もしくは明朝)まで装置の監視を行っている。この12月からは試験運転が終わり供用運転に入るが、そうなるまでビームの安定供給のため益々厳しい状態が続くと思われる。
安定した供用運転を継続するには、正常な3交代勤務体制で運転すべきだと思います。
- (6) 賃金・労働条件・人事評価など、勿論重要であるが、現場の特に若い研究者にとって最大の不満は、研究に専念できないことである(特に物品購入における煩雑な手続きや、実効性の分からない水平展開、その他諸々)。しかし組合がこうした不満を取り上げて改善してくれないので、組合は役に立たない、自分たちとは関係ないという気持ちになっている人が多いのではないかと思う。従ってこうした日常業務の進め方などについても、組合の活動によって具体的に現場の不満が改善されるということを示していく必要があると思う。執行部で何もかも取り組むのは無理であるし、広く多くの意見を持ち寄る必要もあるので、研対部の活動を拡充し、かつ活発な議論が目に見えるよう情報発信していくと良いと思う。 <次号につづく>

科労協2009年春闘討論会に参加してみませんか!

科学技術産業労働組合協議会(科労協)主催で2月21日(土)13時から東京駅近く八重洲ホールで2009年春闘討論会が開催されます。

この討論会での議論をもとに、科労協に所属する各法人(日本原子力研究開発機構、理化学研究所、宇宙航空研究開発機構、科学技術振興機構)に対しての統一要求書を作り、春闘に向けた運動を行っていきます。また、文科省交渉に関する議論も行われます。**参加のための交通費は組合から出ます。**17時前には終わりますので、一度参加してみたい、あるいは週末ちょっと東京に用事がある、という組合員の方がおられましたら、組合事務所、あるいは近くの執行委員に、是非、声をおかけ下さい。